最大の省庁ビル、防衛省見学

２０１１年平和の旅（新宿ウオッチング）の最後のコースは、防衛省（市ヶ谷台）の見学であった。
正門を入ると目の前に高さ 50m を超すかと思える巨大な石の階段があり、その上に巨大なビル（庁舎 E 棟）が建っている。まるで、戦国時代の安土城のような山城だ。連れの一人が言った「何か、テロ集団か敵軍が攻めてくるのに備えているみたいだね」と
見学は外部から、本省などのビルを眺めるだけで、内部が見れたのは、記念館と厚生棟の売店だけであった。大臣室がある A 棟の玄関前を通るときはカメラ禁止でピリピリしているさまが伝わってきた。
記念館は元大本営があり、極東国際軍事裁判の法廷のあったところ。その講堂に入って、旧軍隊の勲章や軍刀など遺物を見せられた。国民に威厳を見せつけるように金のかかったものだった。
午後 3 時頃なのに、構内をジョギングしたり、アスレチックしたりしている人が何人もいる。この人たちの勤務時間はどうなっているんだろう。6 階建ての隊舎だという大きなビルがある。なぜ、こんなに多くの人が構内で生活しなければいけないのだろう。絶えず、戦闘態勢をとっているのだろうか。
国の財政が厳しいと年金や健保の国負担分が削られる一方、防衛費は仕分けの聖域として対象ともならずに、膨大な税金をぬくぬくと浪費している様がまざまざと見えた。
（岡田安正）